

7日目 4月30日

会 場: 松江市営球場

第2試合		～準決勝～																
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
益田東	0	0	0	0	0	0	0	2	0							2	6	0
立正大淞南	0	0	1	0	0	0	4	3	X							8	13	1
(投手-捕手)																		
・ (益)	後藤→江頭→中嶋 - 元川																	
・ (淞)	井上→小坂→日野 - 谷川																	
	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (益)																		
・ (淞)	福島脩、興梠、田中												福島迅					
(審判) [球審] 城市 [一塁] 藤原周 [二塁] 上手 [三塁] 下谷																		
(チーム成績)																		
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨
(益)	36	6	2	0	0	0	6	4	1	0		2		0	2	0	0	0
(淞)	39	13	7	3	0	1	5	3	0	2		0		1	1	0	0	0

立正大淞南

8 対 2

益田東

天 候	快晴
グラウンド 状況	悪い(外野芝濡れ)

試合時間	12:24~14:52(2時間28分)
風	レフトからセンター方向、弱風から普通
	6回表、レフトからライト方向ふう
	7回裏、レフトからライト方向強風
備 考	

試合展開について

事前予想は無いが、秋季大会では序盤の大量得点で試合が決まった。
この試合の分岐点は1~3回の益田東が井上を攻め切れなかったことと、要所で痛いバッテリーミスが出たことだった。

投手情報

立正大淞南	益田東
<p>井上、先発し3回を投げた。右上セット3塁プレートから上の角度のある投球を投げる。直球は投球練習で120km/h後半、試合で130km/h前半、Maxは130km/h中盤だった。秋の決勝戦は直球のみを投げる投手だったが、変化球はスライダーとフォークを投げるのが分かった。スライダーは斜めに大きく曲がり、110km/h中盤だった。基本直球のみを投げる配球だった。制球は不安定で直球が高く抜ける場面が目立った。</p> <p>2番手は小坂が投げた。4回から8回まで5回を投げた。左スリークォーターから少しトルネードして投げてくる。左打者は見えにくく苦戦する可能性がある。幸い同じ左投手の智翠館の山本対策が生かせる投手だ。直球は127km/hを計測し、スライダーとチェンジアップを投げる。スライダーは(横斜め)で大きい曲がりではない110km/h前半。チェンジアップは106km/hだった。制球は両サイドに投げ分けられている。秋は現地で観戦した訳では無いが、スピードやタイプが変わった訳では無いように感じた。</p> <p>3番手で日野が9回を投げた。右スリークォーター気味のサイドから、横の角度のある球を投げる。直球はMax132km/hで手元でシュートしながら沈む。132km/hと120km/h台後半の2つの速さがある。典型的なゴロを打たせてとる投手で対策が必要な投手。変化球は確認できた限りでスライダー(横斜めに大きく曲がる109km/h投球練習で確認)を投げていた。</p>	<p>後藤が6回0/3を投げた。右上3塁プレートから右腕後ろがテイクバックで見える。後ろでぎこちない動きが入るため、直球は出ても130km/h前半から中盤だろう。直球はMax130km/h前半、常時120km/h後半であった。秋のテレビで確認した限りでは直球はクセ球で手元で動くゴロ投手だった。現地で観戦するとあまりクセ球は感じなかった。変化球はスライダー(斜め、103km/h)、カーブ(縦に大きく曲がる90km/h台前~中盤)、フォーク又はチェンジアップ(105km/h前後)の落ちる球を投げる。制球は普通で両サイドに投げ分けができる。しかし、安定しているとは言えず、直球のI方向への抜け球が多い。ベルト付近の高さに直球が集まることがある。5回から制球が散らばり始め、球威が落ちた。</p> <p>2番手で江頭が投げた。7回から1回1/3を投げた。右上から130km/hの直球を投げる。スライダー(横斜め大きく曲がる、114km/h)を投げる。制球はC付近への制球は良いが、G方向は安定せず甘く入ってくることもある。</p> <p>3番手の中嶋は、9回の2/3を投げた。左スリークォーターから横の角度のある球を投げる。直球は125km/hくらいで、スライダー(横斜め大きく曲がる、112km/h)、カーブ(縦斜め、100km/h)を投げる。直球中心の配球で、打たれたため変化球を投じた。制球はG方向を狙った直球が甘く入り痛打されることが多く、安定してはいなかった。首を振るフォームのため制球は安定しない。</p>

攻撃

立正大淞南	益田東
<p>攻撃は投手を除くと左右4人ずつとバランスが良かった。清水以外のスタメンは同じだが、打順は入れ替わっていた。攻撃は送りバントが少なく見えるが、セフティーバントで構える際に遅れることが多く失敗しているものがある。初回、8回と要所はバントをしてくる。更に、昨夏に引き続き走者1・3塁で1塁走者が盗塁し2・3塁に意識的にしている。2塁走者は捕手が構えてから怪しい動きをしていた。走塁は走者1塁で安打が出ても、1・3塁を作ることではできておらず、各駅停車になっていた。</p> <p>打者は積極的に最初のストライクを振るかセフティーバントや構えで揺さぶるなどを仕掛けてくる。約2/3の確率で初球にスイングしてくる(OS3Bなどで振らないことあり)。結果球は8割くらい直球を打っていた。7回裏に相手投手を打ち崩した時は、左打者が外の5と6のコースの直球をライナーかゴロで間を抜いていた。</p>	<p>投手を除くと、左打者が5人で比較的バランスが良く、投手が右打者のためバランスは半々となる。攻撃は送りバントがこの試合は少なく、エンドランで前半は攻めてきた。競った状況で、走者が無死か1死3塁がなかったためセフティースクイズは見せなかった。走塁は安打1本で1塁走者が3塁を陥れることはできていなかった。</p> <p>打者は最初のストライクを2/3の確率でスイングしてきた。直球を打つことが多く、フライアウトが前半は殆どでセフティーバントのアウト1つだけだった。8回はゴロを多くしたことで得点した。</p> <p>前半3回、相手先発の制球が安定せず四死球で走者を貰いながら先制できなかった所が悔やまれる。1回にはエンドランを仕掛けたが、1塁走者のスタートが悪く併殺となった。3回は甘い球を打ち損じ併殺となった。そして継投され、試合が落ち着いてしまった。</p>

守備

立正大淞南	益田東
<p>シートノックでは、全体的に島根県内では送球が正確で上手いと感じた。しかし、試合でショートバウンドなど中途半端な送球が何度かあった。左翼手の清水はフライの追いかたが打球に合わせているので守備が苦手な選手だと感じた。</p>	<p>シートノックを見る限り、スピード感は最もあるチームだった。二塁手は、肩が少し弱く三塁送球で不安に感じるがあった。</p> <p>バッテリーミスが多く、特に接戦の試合後半の要所で失点に直接絡むミスが目立った。</p>